

学校運営協議会 会議実施報告書

このことについて、「岐阜県立学校における学校運営協議会の設置等に関する規則」第8条第1項に基づき、次のとおり学校運営協議会を開催しましたので、その概要について報告します。

- 1 会議名 関高等学校 学校運営協議会 (第2回)
- 2 開催日時 令和5年11月14日(火) 14時00分～17時00分
- 3 開催場所 関高等学校校長室
- 4 参加者

会 長	大野 正博	朝日大学法学部 教授
副 会 長	福田 恵介	福田刃物工業株式会社 取締役
委 員	平田 久美子	平田建設株式会社取締役(欠席)
	衣斐 七海	関市 産業経済部観光課
	村井 義史	本校 同窓会 副会長
	和田 誠司	本校 P T A会長
学 校 側	武田 理	校長
	関谷 篤	教頭
	小島 和秀	教頭
	大野 仁史	事務部長
	川原 正史	教務主任
	杉山 広之	生徒指導主事
	片桐 良子	進路指導主事
	林 直樹	研究推進部長
	松野 恭太	特別活動部長

5 会議の概要(協議事項)

(1) 各分掌の進捗状況について(教務、生徒指導、進路指導、特別活動、探究推進)

意見1: 関高校の高校見学会に参加する生徒は、将来、大学進学を目指す生徒が多くいる。そのような生徒たちに対する模擬授業の実施については、アンケートでの満足度も高いが、中学と高校の授業ギャップを肌で感じることができるよい機会となっている。

意見2: 道路交通法が改正され、傘差しやイヤホンでの自転車運転などに対して反則金制度が導入される。高校生も違反で罰金が科されることとなるが、生徒にはどのように指導しているか。
⇒本校では自転車の「ながら運転」として、イヤホン使用者に対して特別指導を行っている。
集会等の機会には交通事故についての啓発活動を実施している。今後は、更に道路交通法についても周知していきたい。

意見3: 小中高生に薬物の過剰摂取によるオーバードーズが増加している。大麻については、販売・所持だけでなく自己使用についても検挙されることになるが、高校ではどのような指導をしているのか。
⇒違法薬物の使用や合法薬物の過剰摂取については「薬物乱用防止講話」で全校生徒へ指導している。今後も更に啓発活動に努めていきたい。

意見4: 小論文指導は大学でも実施している。関高校生徒の小論文指導の感想を読んでもと、適切な小論文指導が行われている。

- 意見 5 : 学校行事アンケートでは体育祭・文化祭において 100%近い数字の満足度が得られているのは素晴らしいことである。学校説明会等のアンケートでもよい結果が多くある。進学実績以外の面で魅力を感じている中学生が多いことが表れており、多方面に渡る学校の取り組みが評価されている。関高校の教育活動やこれまで培ってきたものが優れているという証拠である。
- 意見 6 : 保護者として、子どもが様々な行事に楽しみを見つながら生活をしていることは喜ばしいことである。
- 意見 7 : 関高校がいろいろなことにチャレンジしていることは、素晴らしいことである。人材を求める側としては、画一的な生徒は求めている。むしろ異質な生徒を求めている。小論文指導の定石として「論理の飛躍はダメ」というものはあるが、社会に出ると論理の飛躍が必要になることもある。文化祭のアンケートではみんなが満足しているという結果ではあるが、異なる意見があっても良い。
- 意見 8 : 探究活動は、Society5.0 時代に適応し、さらに知識を知恵に変えられる学習を目指すべきである。大学入試では、年内入試としての総合型や推薦型の選抜が増加かつ難化している。今までと同じ探究活動では合格が難しくなっているという現状を踏まえ、探究活動を継続してほしい。
- 意見 9 : 探究活動が更に多岐に渡り内容もパワーアップされていると感じる。地域と関わる活動も多いことも好感が持てる。関市は刃物産業をはじめ、製造業・工業の街なので、その方面へもっと活動がアプローチできて良い。
- 意見 10 : 関高ニューズレター 2023 の記事に岐阜総合医療センター新生児内科医長の講演会の記事があった。命の尊さ、命を扱う仕事の厳しさなどが分かる大変すばらしい講演である。ぜひ多くの生徒に聞かせるべきである。どのような生徒を対象に実施したのか。
⇒関高校 P T フォーラムの講演会で実施した。定期考査最終日の午後に行い、対象は保護者と生徒の希望者である。

(2) 学校評価アンケートについて

- 意見 1 : デジタルアンケートは、取り方によって、「参加率が増減する」「本音が出る」「意図的に悪い評価を出す」などの場合がある。PDCA サイクルの中に活用できるアンケートであるべきである。アンケート結果に対して A I は使用しているか。
⇒アンケート集計に A I は使用していない。
- 意見 2 : アンケートは、学校として必要な部分だけをとるのがよい。学校評価アンケートは、学校独自の項目であるか。
⇒最初の 30 項目は県立他校と共通な質問項目で、最後 8 項目が学校独自の項目となっている。
- 意見 3 : 学校評価アンケートは生徒や保護者にどのように還元しているのか。回答した者に結果を伝えることは大切である。また、結果の活用について、どのように改善した(する)のかを、「見える化」することは、是非やるべきである。
⇒学校のホームページに結果を掲載している。今後はアンケートの学校独自項目の中に、本校で困っていることや改善したいことなどの課題について取り入れていきたい。
- 意見 4 : 働き方改革については、やるのは無理と思っていたが、やってみると意外にできるものである。働き方の改革で先生方の働き過ぎを解消してほしい。
- 意見 5 : 大学ではタブレットの使用が増えている。紙に書くことが減り、文章の書けない生徒や漢字の書けない生徒が増えてきたように感じられる。高校ではタブレットを購入し、利用しているのか。
⇒高校では県からのレンタルでタブレットを利用している。紙に書くということが減っていることは確かである。
- 意見 6 : 「わからない」の回答が多い項目については、内容が上手く伝わっていないか適切でないケースが考えられるので、内容もしくは表現方法を見直すと良い。

(3) 生徒によるプレゼン発表に質疑応答について

意見1：プレゼンテーションのスライドが大変見やすく、話の流れ、構成がしっかりしていてわかりやすい。最初の商品提案がボツとなるという挫折があった中で、軌道修正したところが大変良い。自分のやりがいとしてはどうであったか。

⇒材料のことや企画のことで寺の方と打ち合わせをしなければならなかった。学校外部の人との連絡等の交流は、最初は抵抗があつて苦勞したが、すぐに慣れることができ、良い経験、刺激のある経験となった。ワッフル提供時にお客さんが喜んでくれて良かった。活動を通していろんな方と交流ができてよかった。関高校でないとできない活動だと思う。地域の人や他学年の人と関わりができ、いろいろな視点を感じられて良かった。

意見2：ねらいが明確に伝わってきて良かった。人と関わることが一番の収穫や財産となっていると思う。大変、感動した。自分の会社での経験と同じようなストーリーを聞けて良かった。

10分を超えるプレゼンを最後まで飽きることなく聞くことができて良かった。今回のイベントで臨機応変に対応したこと、ブラッシュアップしたことはあるか。

⇒途中からお客さんが急増して注文を間違えてしまった。以後、みんなで意識的に声を掛け合うことで問題を解決できた。

意見3：素晴らしいプレゼンテーションである。米粉カフェを通じて何を学んで、どう成長したか。

⇒他人とのコミュニケーションは苦手であったが克服できた。人との関りを持つと思えたことが成長である。大勢の人の前で話をしたり、意見を言えるようになった。

(4) 「総合的な探究」の授業参観について

意見1：探究の発表を聞いて本当に驚いている。保護者は、自分の子どもがこのようなF R H（総合的な探究）活動に参加していることを知っているのか。学校での活動を保護者にも伝えてほしい。

意見2：各学年でワークシートをもって探究活動の授業を行っていた。1年生では1人ずつ発表し、クラスの生徒全員で評価する形式をとっており、新鮮に感じた。発表について、現場は失敗がつきものである。実体験することは重要である。

意見3：探究活動は自主性がキーワードである。それぞれのレベルでの探究活動で良い。発表では、実体験したことが言葉に繋がり、説得力を生むものだと思う。

意見4：活動を通して、個人が成長して、成長したことを実感できることが自己肯定感につながる。授業で学んだ知識と繋げていくことが大切である。

6 会議のまとめ

第2回の学校運営協議会では、各分掌の今年度の進捗状況、学校評価アンケートの結果について説明した。その後、学校運営協議会の委員の方々から多くのご意見・ご質問をいただき、概ね肯定的な評価を得た。特に今回は、授業参観、本校生徒のプレゼン発表を実施して、各委員の方々に直接生徒の様子を知ってもらう大変貴重な機会となった。